

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 31 日作成)

|                     |   |            |
|---------------------|---|------------|
| 委員会名                | コンセプト設計小委員会   | 主 査 名：横内憲久 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会) | 海洋委員会 (海洋研究推進運営委員会)   | 委員長名：登坂宣好  |
| 設 置 期 間             | 2004 年 4 月 ~ 2008 年 3 月   |            |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画  | <p>海洋委員会の 2004 年度以降の共通研究テーマである、「アダプティブ海洋建築」の概念 (コンセプト) 設計を行うため。</p> <p>1960 年代の海上都市の計画群を第一期としたときの、第二期の海洋空間を利用した建築・都市の構築の可能性を探ることを目的とする。</p>   |            |
| 委員構成<br>(委員名 (所属))  | <p>主査：横内憲久 (日本大学)</p> <p>幹事：居駒和樹 (日本大学)</p> <p>委員：遠藤龍司 (職業能力総合開発大学校)</p> <p>岡田智秀 (日本大学)</p> <p>後藤剛史 (法政大学)</p> <p>小林昭男 (日本大学)</p> <p>川上善嗣 (職業能力総合開発大学校)</p> <p>登坂宣好 (日本大学)</p> <p>濱本卓司 (武蔵工業大学)</p> <p>野口憲一 (大成建設)</p> <p>松井徹哉 (名城大学)</p> |            |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)  | なし  |            |
| 2003 年度予算           | 200,000 円   |            |

|     |       |
|-----|-------|
| 項 目 | 自己評価  |
|     | 概ね良好。 |

|                               |   |
|-------------------------------|---|
| <p>委員会活動状況<br/>(開催日・参加人数)</p> | <p>第1回<br/>日時：2004年8月9日(月)16:00～18:00<br/>場所：学会301会議室<br/>出席者：横内憲久、登坂宣好、遠藤龍司、小林昭男、川上善嗣、<br/>後藤剛史、松井徹哉、居駒和樹、岡田智秀、野口憲一<br/>(順不同)</p> <p>第2回<br/>日時：2004年10月29日(金)18:00～20:00<br/>場所：学会303会議室<br/>出席者：横内憲久、遠藤龍司、小林昭男、松井徹哉、居駒和樹、<br/>岡田智秀、野口憲一、濱本卓司 8名(順不同)</p> <p>第3回<br/>日時：2004年11月24日(水)17:00～20:00<br/>場所：学会会議室<br/>出席者：横内憲久、野口憲一、居駒和樹、川上善嗣、濱本卓司、<br/>松井徹哉、遠藤龍司、後藤剛史、岡田智秀、小林昭男、<br/>10名(順不同)</p> <p>第4回<br/>日時：2004年12月21日(火)15:00～17:00<br/>場所：学会会302議室<br/>出席者：横内憲久、野口憲一、居駒和樹、川上善嗣、濱本卓司、<br/>松井徹哉、遠藤龍司、後藤剛史、登坂宣好、小林昭男、<br/>10名(順不同)</p> <p>第5回<br/>日時：2005年1月24日(月)18:00～20:30<br/>場所：学会会308議室<br/>出席者：横内憲久、居駒和樹、川上善嗣、濱本卓司、松井徹哉、<br/>後藤剛史、岡田智秀 7名(順不同)</p> |
| <p>得られた成果</p>                 | <p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p>   |

|                   |   |
|-------------------|---|
|                   | <p>1. 「アダプティブ海洋建築」の定義<br/> 大都市の海岸線近傍に建設される「都市機能補完型海洋建築(物)」で、必要に応じてその規模・形態を変えることができる海洋上の浮体施設。また、規模ばかりだけではなく、その機能も可変および挿入できることから、形態や機能の異なるものを接合・調整する建築物として「アダプティブ海洋建築」と称する。</p> <p>2. 想定される「アダプティブ海洋建築」の機能と規模<br/> ・機能；防災機能。災害としては、大規模地震(津波含む)を想定。大火災、高潮(台風等)も考慮。<br/> ・「防災機能」には、以下の4つが考えられる。<br/> 避難空間機能(第1～N次避難場所)。<br/> 救援支援機能(ヘリポート・海上輸送拠点等)。<br/> 備蓄機能(テント・簡易トイレ・医療品機材・飲食飲料等)。<br/> 指揮機能(指令センター・データセンター等)。</p> <p>3. 「アダプティブ海洋建築」のシステム<br/> ・平常から非常への転換のシステム。<br/> ・「アダプティブ海洋建築」の係留方法。<br/> ・「アダプティブ海洋建築」の着脱技術。<br/> ・「アダプティブ海洋建築」のモジュール。<br/> ・設置場所や機能に伴う「アダプティブ海洋建築」の適正規模。</p> <p>4. 想定される「アダプティブ海洋建築」の立地海域<br/> ・三大湾(東京湾/大阪湾/伊勢湾)が対象。とりえず東京湾とする。<br/> ・「アダプティブ海洋建築」によって都市環境が良好になるのならば地方都市でも可能性あり。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p> |
| <p>目標の達成度</p>     | <p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)<br/> 達成度は高い。</p>  |
| <p>その他評価すべき事項</p> | <p>特になし。</p>  |